

令和 6 年 度 学 校 総 合 評 価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

「高啼く理想、道を拓かん」の校訓のもと、伝統と文化が息づく八尾地域にあって、素直で規律正しく、真面目にひたむきな姿勢で学ぶ生徒が多い。一方で将来に対する目標があいまいな生徒もあり、積極的に自己の将来を切り拓いていく気概や意欲が不足している点が課題と考え、6つの重点項目を設けたアクションプランとした。

「学習活動」では、生徒自身がアンケートによってその取り組み方を自己評価した。ともに評価は昨年より改善がみられる。

「学校生活」では携帯電話の使用方法については、生徒自身に目標を設定させ、その達成度を自己評価する方法で評価した。これも目標を上回った。身心の健康面では生徒健康診断で、医師からの所見があった生徒に対する治療率は昨年よりは向上したものの、目標には達しなかった。

「進路支援」では、生徒の第一志望の維持と達成率、および推薦型選抜や総合型選抜での合格率を指標としたが、目標には及ばなかった。しかしながら、一般入試での合格者数が昨年を大きく上回ったことは高く評価できる。

「特別活動」では、八尾地域に貢献すべく、ボランティア活動を通して地域と交流し、生徒自身の自己有用感を高める目標を設定した。ボランティア参加の延べ人数は増えたが、実人数はわずかに減少した。

「ホームページによる情報発信」では、ホームページの更新を通して学校生活の様子をできるだけリアルタイムに発信することを目指した。昨年の数を超える更新ができたことや生徒自身が委員会活動によって、関わった点がとても良かった。

7 次年度へ向けての課題と方策

「今年度の評価をもとに、次年度では以下のように取り組んでいきたい。

「学習活動」では、主体的・対話的部分が弱く、積極性にやや欠ける。このことは、八尾高校生の課題であり、次年度改善の必要性がある。

「学校生活」では、携帯電話の使い方を含め省察する機会を増やし自律的態度を育成したい。健康面では、学校評議員からも、人生 100 年時代を迎えて、高校生時期の健康が大切との指摘を受けており、健康管理の大切さを注意喚起していきたい。

「進路支援」では、より高いレベルでの進路実現を目指し、ホームルーム等で大学研究を深めつつ、受験指導を充実させ、内発的動機づけによる基礎学力の向上を図るとともに、全校での支援体制を強化する。

「特別活動（ボランティア）」では、地域との交流の高まりからボランティアの依頼の増加が予想され、生徒への情報提供と希望者の集約や配分方法を工夫し、ボランティア活動のさらなる活性化を図る。

「ホームページによる情報発信」では、次年度もホームページの更新回数を今年度以上として取り組みたい。生徒の広報委員会活動を活発化させ、情報発信力のスキル向上を図りつつホームページ作成を通して、学校への帰属意識、誇りを醸成したい。

次年度は、「自ら主体的に」「仲間と共に」「地域の中で」自分の将来の道を切り拓いていくことをテーマとしてスクールポリシーを見直した。生徒が自ら目標を設定し、クラスや部活動の仲間とともに切磋琢磨しながら、地域との関わりの中で、理想を実現できるよう学校全体での取り組みを進めていきたい。

(様式5)

8 学校アクションプラン

	令和6年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン											— 1 —																																																																																																				
重点項目	学習活動（学習指導の充実）																																																																																																															
重点課題	「主体的・対話的で、深い学び」を実現する授業の推進、改善																																																																																																															
現 状	・授業アンケートを参考にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組んでいるが、年々向上していた肯定的回答比率の数値が昨年（R5）初めて低下した。今年度では、さらに生徒が協働して学ぶことができる授業を目指し、より能動的・意欲的に取り組もうとする姿勢を育てる必要がある。																																																																																																															
達成目標	・「主体的・対話的で深い学びに関するアンケート項目の質問」において、肯定的回答を80%以上にする。																																																																																																															
方 策	・全ての教科で公開授業を行い、担当する教科の授業と他教科の授業を見学する機会を設ける。見学者からの感想やアドバイスと教科部会での話し合いを通して情報交換を行い、学校全体の授業改善に努める。 ・「授業・学習に関するアンケート」の「主体的・対話的で深い学び」に関する生徒の回答から、授業分析や改善を行い、授業の質の向上に努める。 ・タブレットを効果的に使用した授業の実現に積極的に取り組み、ICT教育の推進に努める。 ・グループ(ペア)活動にも積極的に取り組み、より対話的で深い学びを目指す。																																																																																																															
達 成 度	・今年度の互見授業は総数で48回実施した。授業を見学して授業改善に努めることは定着してきていると思われる。 【アクティブラーニングに関するアンケート項目・集計】 肯定的回答比率 <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>R6</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td></tr><tr><td>1.授業では毎回生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを発表する機会がある。</td><td>92.2</td><td>94.7</td><td>89.6</td><td>89.9</td><td>91.3</td><td>87.0</td><td>89.6</td><td>89.9</td><td>83.3</td><td>89.6</td></tr><tr><td>2.他の生徒と意見・考えを話し合ったり、知識や技術を身に付けるために協力して練習したり、質問を出し合ったりする機会がある。</td><td>90.3</td><td>93.9</td><td>82.2</td><td>77.9</td><td>91.7</td><td>81.2</td><td>88.3</td><td>88.5</td><td>83.4</td><td>88.3</td></tr><tr><td>3.先生からの質問や演習、小テストや課題、ペアワークやグループワーク等から、積極的に学び・取り組む姿勢が身に付く授業内容である。</td><td>92.4</td><td>94.5</td><td>88.5</td><td>87.0</td><td>93.1</td><td>87.0</td><td>90.0</td><td>90.4</td><td>84.4</td><td>90.0</td></tr><tr><td>4.困っている生徒に教えたことがある。</td><td>73.7</td><td>74.4</td><td>60.4</td><td>57.3</td><td>61.5</td><td>66.7</td><td>74.8</td><td>74.8</td><td>69.6</td><td>74.8</td></tr><tr><td>5.分からないところやできないところを、他の先生や生徒に質問（相談）する。</td><td>83.1</td><td>85.4</td><td>70.6</td><td>64.8</td><td>77.0</td><td>77.6</td><td>81.3</td><td>82.0</td><td>73.6</td><td>81.3</td></tr><tr><td>6.グループ(ペア)活動では、相手も自分も身に付くように積極的なコミュニケーションをとる。</td><td>87.2</td><td>91.5</td><td>81.8</td><td>78.9</td><td>87.2</td><td>82.8</td><td>83.7</td><td>83.6</td><td>82.1</td><td>83.7</td></tr><tr><td>7.グループ(ペア)活動では、メンバーと協力しながら積極的に取り組み、成果をあげている。</td><td>86.7</td><td>91.5</td><td>78.8</td><td>74.3</td><td>84.4</td><td>83.3</td><td>82.5</td><td>82.2</td><td>78.7</td><td>82.5</td></tr><tr><td>8.授業では、意欲的に発言したり、積極的に活動や練習に参加している。</td><td>83.3</td><td>86.3</td><td>71.4</td><td>69.0</td><td>71.1</td><td>77.5</td><td>79.6</td><td>78.9</td><td>74.7</td><td>79.6</td></tr></table> （数値の網掛けは平均より低い項目）														R3	R4	R5	1年	2年	3年	R6	1年	2年	3年	1.授業では毎回生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを発表する機会がある。	92.2	94.7	89.6	89.9	91.3	87.0	89.6	89.9	83.3	89.6	2.他の生徒と意見・考えを話し合ったり、知識や技術を身に付けるために協力して練習したり、質問を出し合ったりする機会がある。	90.3	93.9	82.2	77.9	91.7	81.2	88.3	88.5	83.4	88.3	3.先生からの質問や演習、小テストや課題、ペアワークやグループワーク等から、積極的に学び・取り組む姿勢が身に付く授業内容である。	92.4	94.5	88.5	87.0	93.1	87.0	90.0	90.4	84.4	90.0	4.困っている生徒に教えたことがある。	73.7	74.4	60.4	57.3	61.5	66.7	74.8	74.8	69.6	74.8	5.分からないところやできないところを、他の先生や生徒に質問（相談）する。	83.1	85.4	70.6	64.8	77.0	77.6	81.3	82.0	73.6	81.3	6.グループ(ペア)活動では、相手も自分も身に付くように積極的なコミュニケーションをとる。	87.2	91.5	81.8	78.9	87.2	82.8	83.7	83.6	82.1	83.7	7.グループ(ペア)活動では、メンバーと協力しながら積極的に取り組み、成果をあげている。	86.7	91.5	78.8	74.3	84.4	83.3	82.5	82.2	78.7	82.5	8.授業では、意欲的に発言したり、積極的に活動や練習に参加している。	83.3	86.3	71.4	69.0	71.1	77.5	79.6	78.9	74.7	79.6
	R3	R4	R5	1年	2年	3年	R6	1年	2年	3年																																																																																																						
1.授業では毎回生徒自身が考えたり、工夫したり、意見・考えを発表する機会がある。	92.2	94.7	89.6	89.9	91.3	87.0	89.6	89.9	83.3	89.6																																																																																																						
2.他の生徒と意見・考えを話し合ったり、知識や技術を身に付けるために協力して練習したり、質問を出し合ったりする機会がある。	90.3	93.9	82.2	77.9	91.7	81.2	88.3	88.5	83.4	88.3																																																																																																						
3.先生からの質問や演習、小テストや課題、ペアワークやグループワーク等から、積極的に学び・取り組む姿勢が身に付く授業内容である。	92.4	94.5	88.5	87.0	93.1	87.0	90.0	90.4	84.4	90.0																																																																																																						
4.困っている生徒に教えたことがある。	73.7	74.4	60.4	57.3	61.5	66.7	74.8	74.8	69.6	74.8																																																																																																						
5.分からないところやできないところを、他の先生や生徒に質問（相談）する。	83.1	85.4	70.6	64.8	77.0	77.6	81.3	82.0	73.6	81.3																																																																																																						
6.グループ(ペア)活動では、相手も自分も身に付くように積極的なコミュニケーションをとる。	87.2	91.5	81.8	78.9	87.2	82.8	83.7	83.6	82.1	83.7																																																																																																						
7.グループ(ペア)活動では、メンバーと協力しながら積極的に取り組み、成果をあげている。	86.7	91.5	78.8	74.3	84.4	83.3	82.5	82.2	78.7	82.5																																																																																																						
8.授業では、意欲的に発言したり、積極的に活動や練習に参加している。	83.3	86.3	71.4	69.0	71.1	77.5	79.6	78.9	74.7	79.6																																																																																																						
具体的な 取組状況	・授業アンケートを参考にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて改善に取り組んでいる。 ・タブレットなどのICT機器を利用した授業改善に努めている。																																																																																																															
評 価	B	昨年落ち込んだ数値が回復し、ほぼ目標を達成した。2年生の数値がやや低い、1年次と比較すると向上している。																																																																																																														
学 校 評 議 員の意見	・生徒アンケートをもとに、授業改善に取り組んでいるところや、授業の中でのICT機器の利用や生徒同士の対話を重視した授業を模索している点は高く評価できる。生徒の学習姿勢が能動的・意欲的となるよう、またコミュニケーションスキルの向上は、将来社会人として生活する上で必要不可欠な力である。今後の継続した取り組みを望む。																																																																																																															
次 年 度 へ 向 け て の 課 題	・本校生徒は真面目で優しい生徒が多いが、一方では授業アンケートの結果を見ても主体的・対話的の部分が弱く、積極性にやや欠ける。これらは学業以外の面でも八尾高校生の課題であり、今後の改善の必要性がある。																																																																																																															

(評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

	令和6年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		— 2 —
重点項目	学校生活（生徒指導）		
重点課題	規範意識の高揚と自己指導能力の育成		
現 状	一日の学校生活を気持ちよくスタートするために、遅刻をせずに登校することは基本であり、時間を守ることは社会に出てからも必要不可欠なことである。また、クラスで仲間とともに学ぶという観点からも、環境を整える意味で大切なことである。昨年度、1年間で3回以上遅刻した生徒は全体の約13％であった。通院等でやむを得ず遅れる場合を除いて、生活習慣の乱れや安易な気持ちからの遅刻を減らしたい。 また、私たちの生活に欠かせない存在となっている携帯電話（スマートフォン）はその機能の多さから使い方を誤るといろいろなトラブルを引き起こす可能性があり、また依存に陥りやすい。昨年度、1日3時間以上使用していると答えた生徒は全体の約36％であった。校内では使用しないといった校則を守ることはもちろん、家庭にいる時間も含めて、高校生活を有意義に過ごすためにどのように使用するかを考え、実行する力を養いたい。		
達成目標	① 年間で3回以上遅刻をする生徒の割合が10％以下	② 携帯電話の使用について、自己目標を設定し、それを実行した生徒の割合が70％以上	
方 策	・行事等も含めた学校活動の様々な場面で、校則や時間を守る意識の向上を図る。特に携帯電話の使用に関しては保護者と連携を図り、SNSをはじめインターネットとの上手な付き合い方を身に付けさせる。 ・校風委員・生徒会を中心として、自然に挨拶ができる校風を作る。 ・校風委員が中心となった生徒自身が校則や携帯電話の使用について考える活動ができるように、委員会活動の充実を図る。 ・街頭指導を行い、交通安全について注意喚起を行う。 ・外部講師を招いた講座を企画し、規則やルールについて考える機会を持つ。 ・普段から生徒の様子に気を配り、規範意識に欠けた心配な行動があればすぐに注意喚起を行う。		
達 成 度	① 自己怠慢による遅刻が3回以上の生徒の割合は4.7％	② 携帯電話の使用に関する自己目標を概ね実行できたと答えた生徒の割合は62.6％	
具体的な取組状況	・統一HRを実施し、頭髪・服装等の身だしなみについてグループ討論した。また、携帯電話の使用について振り返り、各自が自己目標を設定した。 ・統一HRでの皆の意見や現状をまとめ、高啼ウィークで発表し、注意喚起を行った。 ・外部講師を招いて、携帯電話・ネットトラブル防止講座、交通安全講習会、薬物乱用防止教室、デートDV予防啓発セミナーを実施した。 ・携帯電話の校内ルール違反があった場合は、違反した生徒が対話を通して考える時間を多く設けて、携帯電話の使用状況とルールの厳守について振り返りを行った。 ・1学期には県のさわやか運動を通して校内各委員会やボランティア生徒・保護者と一緒に、2学期には校風委員のみで挨拶運動を行った。また、定期的に街頭交通安全指導を行った。		
評 価	B	目標①は達成、②は目標を下回った。	
学校評議員の意見	・高校生のスマートフォン使用の仕方は、規範意識をよく反映しており、校則違反と合わせて考える指標としては適当である。数値がより改善するよう、統一ホームルームやグループ討論、外部講師の講座など粘り強く取り組むことが重要である。		
次年度へ向けての課題	・規範意識と自分を律する気持ちを持って毎日の高校生活を過ごすことができれば、誰にとっても過ごしやすい環境と、より充実した時間を作ることができる。特に携帯電話については使い方を誤ると多くの悪影響を及ぼすので、学習を主体とした有意義な高校生活になるように、使い方を振り返り考える時間を今後も増やしていきたい。		

（評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

	令和6年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		— 3 —
重点項目	学校生活（心身の健康）		
重点課題	・心身の健康を保つ健康管理意識の向上 ・健康を守るために自ら改善に向けて行動しようとする力の育成		
現 状	昨年度の実践により、自身の健康に気を配っていると回答した生徒は、年間を通して増加がみられた。しかし、健康に気を配っていると回答した生徒が多い割には4月に行った健康診断で治療が必要だと判断された生徒のうち、実際に治療に行った生徒は、すべての健康診断項目において対象の1割以下にとどまっていた。健康管理に関する意識に行動が伴うように、指導をしていく必要がある。豊かな生活を送るためには自身の健康管理への意識を持ち、行動することが大切であることに気づき、実践していけるようにしたい。		
達成目標	健康診断後の有所見者の治療率が90パーセント以上。		
方 策	・保健だより等で、積極的に治療の呼びかけを行う。 ・保健委員が中心となった生徒の自主的な保健活動ができるように、委員会活動の充実を図る。 ・定期健康診断の事前・事後指導を通して、健康への関心を高める。 ・ワークシート等を利用して、個々が自分の健康管理について振り返る機会を設ける。		
達 成 度	1学期に行った健康診断の結果で所見があると判断された生徒390名のうち、2学期末までの時点で受診を済ませた者は68名で、受診率は約17％であった。2学期末の保護者懇談会で治療カードの再送付を行ったところ、年末から年始かけて受診した者が23名おり、受診者は、91名となった。受診率としては、約23％となった。受診者は増加したものの低い受診率に留まっており、治療率90％以上という目標を達成することはできなかった。		
具体的な 取組状況	・保健だよりの発行やポスター掲示による健康管理の呼びかけ ・保健委員会による健康管理意識の向上を目的とした「応急手当」に関する見聞を広げる活動（各クラスでの講習会、ステージ発表、マニュアル冊子の作成、等） ・保健委員会による自己肯定感を高めることを目的としたリフレーミングに関する掲示発表 ・アンケートによる健康管理に関する意識調査 ・換気等の感染症対策の呼びかけ		
評 価	C	保護者懇談会や委員会、集会の時に呼びかけたが、目標を達成できなかった。	
学校評議員の意見	・人生100年時代を迎え、その礎となる十代の過ごし方や健康管理がますます重要となっている。生徒や保護者を巻き込み、青年期の病気への対応が将来の健康維持に大きな影響を与えることを伝える場を設定してほしい。健康診断の結果に対し、91名（23％）の受診率は、まだまだ低い。そのようになる原因や理由を考え、その改善策を検討してほしい。		
次年度へ 向けての 課題	・明るく健康的な生活を送るために、個々の生徒が自分で意識して、自分の生活を振り返って健康保持のために必要なことを考えたり、生活改善に向けて行動したりできるように、継続して健康管理の大切さを注意喚起していきたい。		

（評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

	令和6年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン						— 4 —
重点項目	進路支援（進路指導の充実）						
重点課題	より高いレベルでの進路実現の促進						
現 状	(1) 昨年度卒業生の9月進路希望調査時の第一志望と実際の進路決定状況は下の表の通りで、校種別の第一志望達成は151名中 127名 の約84%であった。ここ数年、9月志望時に四年制大学を志望する生徒の割合が増えているが、最終的に短大や専門学校に進学する生徒が増加した。						
		大学進学	短大進学	専門進学	その他	就職	9月志望 計
	大学志望	96名	8名	8名	6名	0名	118名
	短大志望	0名	14名	0名	0名	0名	14名
	専門志望	1名	1名	17名	0名	0名	19名
	就職希望	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	進学先 計	97名	23名	25名	6名	0名	151名
	(2) 昨年度卒業生における国公立大学学校推薦型選抜の結果は、出願21名、合格13名、合格率61.9%であり、一昨年より低下した。大学入試における学校推薦型選抜・総合型選抜の割合は増加傾向にあり、国公立大学志望の強い生徒に対する指導方法を研究し、合格率を上げたいと考える。						
達成目標	(1) 9月実施の進路希望調査における校種別の第一志望において、80%以上の生徒が目標を達成すること。（高い目標を掲げた生徒への進路支援） (2) 国公立大学の学校推薦型選抜・総合型選抜の合格率70%以上を目指す。						
方 策	①学年との連携 ・進路講話や学年集会などを通して、進路意識の高揚や学習意欲の向上を図る。 ・3学年の進学指導方針の立案・計画・実施の支援を積極的に行う。 ②進路指導委員会の活用 ・進路指導の問題点を把握し、とるべき方策を学校全体の共通理解として提示し、問題解決を図る。必要に応じて他の分掌とも連携する。 ③学校推薦型選抜指導の充実 ・学年外の教員も含め、全教職員協力のもとで指導に当たる。 ・使用テキストや指導方法を記録・保存し、有効な指導法を次年度の指導に生かす。						
達成度	(1) 本年9月の進路希望調査の状況は大学104名、短大13名、専門23名、就職1名であった。3月15日現在の進路決定者は、大学82名、短大15名、専門等29名、就職1名の計127名（全体の約92%）であり、第一志望の校種に合格した生徒は84.1%であった。 (2) 国公立大学学校推薦型選抜・総合型選抜の結果は、出願29名、合格12名、合格率41.4%であった。出願者は昨年より8名増加した。						
具体的な取組状況	・志望理由等、早期から進路について深く考えさせる指導により、第一志望合格を勝ち取ることができた。 ・学校推薦型選抜・総合型選抜の指導方法について検討し、学校全体で志望理由書、小論文や面接等の指導を行った。						
評価	C	・3月15日現在の進路決定者については、目標をクリアした。 ・国公立大学学校推薦入試の結果は目標を下回った。					
学校評議員の意見	・進路選択は「自分を探し」から始まる。自分を見つめ、将来の目標を定めたら、それを実現させるための努力をさせる。学習には近道はなく、時間と量は必要不可欠である。生活を見つめ、学習時間を確保するための意識を高めることが重要である。						
次年度へ向けての課題	・推薦入試においても基礎学力が必要であり、その向上が必要である。大学研究をしつつ、出願前の受験指導を充実させたい。						

（評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

	令和6年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		— 5 —
重点項目	特別活動（ボランティア活動の活性化）		
重点課題	地域の施設訪問やイベントなどへのボランティア活動に参加して、様々な世代や立場の方と交流し、人間的な成長を図るとともに、地域社会の一員としての自覚を持たせる。		
現 状	本校生徒は、多くの地域の方々に支えられて学習活動を行っている。地域の方の理解のもと、福祉コースでは、社会福祉施設の見学や実習を行っている。また、吹奏楽部や郷土芸能部など、地域のイベントへの参加の依頼も多い。多くの方と触れ合うなかで、自分の役割を実感し、必要とされているという充実感を持つ生徒も多い。 コロナ禍での制限が緩和され、今後、ボランティアの依頼が増加することが予想される。本校は、福祉コースに限らず、ボランティアを希望する生徒が多くいる。昨年は、のべ249名が参加した。		
達成目標	ボランティア参加の延べ人数が、昨年を上回る。 全校生徒の1/3の生徒が、ボランティア活動に参加する。		
方 策	・ Google クラスルームを利用し、多くの情報を生徒に提供する。 ・ Google フォームを活用し、ボランティア希望者の集約、配分を行う。 ・ 福祉コース以外の生徒にも、ボランティア活動への参加を広く呼びかける。		
達成度	ボランティア参加延べ人数は313名（7.3.13現在）昨年比125.7% ボランティア活動参加人数は125名（7.3.13現在）全校に対する割合29.5%		
具体的な 取り組み 状況	・ Google クラスルームを利用した情報発信や希望者の集約はスムーズに行われた。 ・ 能登災害支援ボランティアや八尾スポーツフェスなど新たなボランティアの依頼があった。 ・ 生徒が個人でボランティア活動に参加しているケースも増えている。		
評価	B	ボランティア活動に参加した生徒の延べ人数は増加したが、実人数は昨年より減少している。(132→125名)	
学校評議員の意見	・ 福祉コースの生徒も多く関わるボランティア活動では、「地域の困りごとの解決」活動をキーワードとするとよい。高校生としてどのような助けや解決ができるかを考えて実行してほしい。八尾地域には、幼稚園から高校生までが一体となって学びあう「八尾学園構想」があった。「おわら」の参加も含めてPRをしていくとよい。		
次年度に 向けての 課題	・ さらにボランティアの依頼が増えると予想されるので、生徒への情報発信と希望者の集約や配分をよりスムーズに行うようにする。 ・ 特に1年生へのボランティア活動への参加を促すように新入生オリエンテーションや学年集会などで呼びかけを行う。		

（評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和6年度 富山県立八尾高等学校アクションプラン		— 6 —
重点項目	その他（学校ホームページによる情報発信の活性化）	
重点課題	学校ホームページ更新回数を増やす。	
現 状	本校の学校ホームページの更新については校務分掌上に位置づけ、運営を行っている。学校ホームページの組織的な運用はかなり進んできてはいるものの、一部の教員に依存する部分がある 閲覧状況に関しては、ページ数よりも更新回数の方が、閲覧回数への影響が大きい傾向が見られる。ホームページ閲覧回数増をはかるため、昨年度は更新回数増の取り組みを進め、令和4年度の74回に対し、令和5年度は127回と大きく増加した。	
達成目標	古くなって現状と合致しない情報を残さないことと、閲覧者に再び見を訪れようという意欲を持たせることの2点を目標として、更新回数は昨年を上回る135回と設定する。	
方 策	今年度より、学校の委員会活動として広報委員会を発足させ、可能な範囲で行事の写真撮影、取材、原稿づくりを委員が行う。運営の一部を生徒が行うことにより、生徒の自主性、情報発信力の向上にも繋がると期待している。	
達 成 度	今年度の学校ホームページの更新回数は、3月21日時点では150回である。	
具体的な取組状況	広報委員会が自主的に、写真撮影、取材、原稿づくりを行っている。生徒に業務を与えることで、委員としての自覚と責任感が深まったようである。	
評 価	A	・3月21日現在、年間の目標135回を上回る150回を達成している。 ・教員だけではなく、生徒委員会もホームページでの広報に関わる活動を展開することができた。
学校評議員の意見	・生徒の委員会活動を巻き込みながら、140回のホームページ更新は評価できる。八尾高校は他の学校と比較して、地域との繋がりが強い。富山市がニューヨークタイムズ紙の「2025年に行くべき52か所」に選定され、「おわら」や曳山など伝統文化が注目を浴びている。今後、県や市とともにタイアップしながら、地域の情報発信となる活動が行われることを期待したい。	
次年度へ向けての課題	・ホームページの更新回数を今年度以上として取り組みたい。そして、広報委員会活動を活発化させ、情報発信力のスキル向上を図りたい。また、生徒にはホームページ作成を通して、学校への帰属意識、誇りを育成させたい。	

（評価の基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）